

書籍名	8がけ社会	著者名	朝日新聞取材班
出版社名	朝日新書	発行年月	2024年9月

2040年には、現役世代が2割減少する「8がけ社会」がやってきます。また社会を維持するため必要なサービスが、需要に対して1100万人分も不足する「労働供給制約社会」が15年後に迫っています。

人口問題研究所が戦前の1940年に「昭和100年(2025年)に若年人口は減少、老年人口が多数になり、労働量が激減する」と予測しています。その後の敗戦、高度成長も知るはずのない100年前に予測できたことに、なぜ私たちは対応できなかったのでしょうか？

現在も、わずか15年後の労働供給不足社会(8がけ社会)への対応の兆しがありません。

人手不足の影響が大きい分野は、「医療・介護」、「教育・保育」、「建設・製造」、「公共交通」「農林漁業」、「治安・防衛」…ほぼすべての分野で間違いなく社会サービスは低下します。例えば2040年には、こんな社会が予測できます。現在の週4回の訪問介護は1回、生ごみ回収は、現在の週2回が1回になり、自宅で1週間生ごみを保管することになります。全国の73万の道路橋のうち75%が老朽化する見込みがあり、保守・点検を担う土木技術者がいません。農業従事者は4分の1になり、お米は輸入に依存する様になります。もちろん注文して翌日届くような通販サービスはありません。

2022年公開の映画「PLAN75」をご覧になりましたか？

国が「75歳以上の高齢者が自ら死を選べる制度を施行する」、そんな未来を描いた問題作でした。現実にコロナ蔓延のころ、ヨーロッパでは限られた医療資源を若者に優先的に供給する選択が一部で真剣に検討されたとのことでした。

高齢社会を語る時に、私たちは2~3人の現役世代が1人の高齢者を騎馬戦のように支えているイラストを見せられます。いつの間にか高齢者を「負担」と捉えるようになりました。

実際、現役世代は余裕がありません。結婚できない、子供を産めない、住宅ローンが組めない…親の世代が、当たり前にしてきたことができないでいます。

暗い話ばかりしてきましたが、本書は、「8がけ社会」を突破する発想の転換、新しい価値観も提案しています。



私たち一人ひとりの価値観をアップデートすることでこの難局を乗り越えましょう。

岩城

編集後記

さて2025年がスタート!今年は巳年(十二支の6番目で蛇)。復活、再生、成長、変革などを意味します。上記にも昭和100年にあたることも、少し2024年の振り返りをはず、LADの大谷選手の50本塁打/50盗塁(50-50)、現状が最終形でないこと、目標達成を一緒に体験できたこと、何よりスポーツついでにあって改めて実感できました。そして、日本被団協=日本原水爆被害者団体協議会にノーベル平和賞が贈られたこと。代表委員の田中熙巳さんの演説には沢山の思いが込められており、「人類が核兵器で自滅することのないように!そして、核兵器も戦争もない世界の人間社会を求めて共に頑張りましょう!ありがとうございます。」と結びました。2025年は朝夕流れるニュースに戦争の話がないことを切に願います。最後は、金利のない時代からある時代へ。1999(H11)年にゼロ金利、2016(H28)年にマイナス金利を導入した日銀が、約17年ぶりに利上げに踏切る。NISAやiDeCoの活用、銀行の金利競争が激化しています。私は、高齢者施設の資金計画の借入時の貸付金利が気になります。大阪市の毎年の公募は特養、特定施設、GH全て再募集に!一番の原因は建築費高騰でしょう。いつまで続く?

介護業界では、M&Aが盛んに行われています。再編がさらに進むことでしょう。弊社が経験した中では、築20年の建物を、異なる運営者がそのまま借受け、改修し新たな業態で再スタートするケースも。コスパな開発計画と言えます。2025年は第9期の2年目です。介護枠を取得する事業者、介護枠なしの開発を進める事業者、土地建物取得に動くホルダー、それらをまとめ、実現化していくのが弊社の業務です。少なくなりつつある土地活用のご相談も何なりと!沢山の方々と出会いの多い1年を希望し、皆様に

発行所:ライフデザイン研究所 編集人 伊藤  にとって実りある1年になりますことを祈りつつ、今年もよろしくお祈りします 

所在地:〒541-0048 大阪市中央区瓦町3-4-87サビル2F Tel 06-4708-6844 Fax 06-4708-7067 